

各関係機関長 様

佐賀県農業技術防除センター所長

## 低温、積雪後のタマネギ病害対策の徹底について

### —ポトリチス葉枯症、腐敗病の防除を徹底しましょう—

1月23日から25日にかけての記録的な低温、積雪により、生育の進んだマルチ栽培等タマネギにおいて茎葉の傷害が発生しています。今後、この傷害部に病原菌が侵入し、病害の発生が拡大すれば、葉枯れや鱗茎の腐敗を生じ、タマネギの生育、収量に大きな影響を与える恐れがあります。

については、下記を参考に防除対策を実施してください。

#### 記

#### 1. 発生概況

- (1) 1月27日に行った調査において、マルチ栽培タマネギ圃場を中心に低温や積雪が原因と考えられる茎葉の煮えたような症状や白化した症状を認めた。(写真1、2)
- (2) 1月18日に行った調査では、ポトリチス葉枯症の発生株率は19.9%（平年3.7%、前年0%）であり、平年及び前年より高かった。(図1、写真3)
- (3) 腐敗病についても、1月下旬に本圃で発生を認めている。(写真4)



写真1 茎葉の煮えたような症状



写真2 茎葉の一部が白化した症状

※写真は、すべて平成28年1月27日撮影

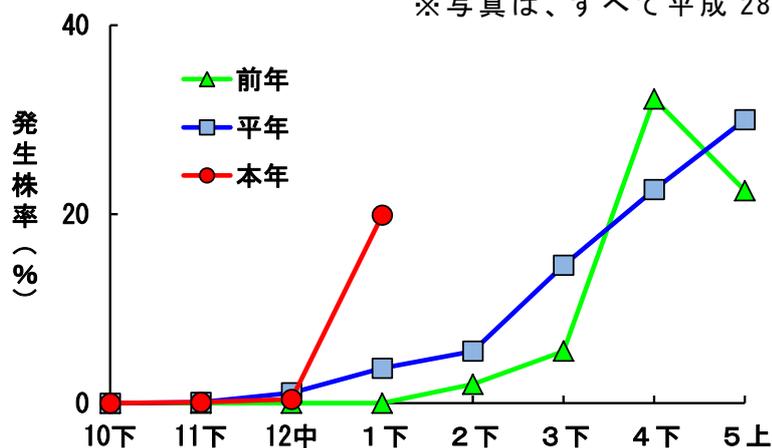


図1 タマネギポトリチス葉枯症の発生推移



写真3 タマネギボトリチス葉枯症  
(平成28年1月27日撮影)



写真4 タマネギ腐敗病  
(平成28年1月5日撮影)

## 2. 防除対策

- (1) 圃場ごとに傷害の発生状況を確認する。特に、マルチ栽培圃場では確実にを行う。
- (2) 傷害を認めた圃場では、早急にボトリチス葉枯症及び腐敗病の防除を実施する。
- (3) 傷害を認めない圃場においても、上記病害の発生を認めた場合は発生初期に防除を実施する。
- (4) 防除薬剤は表1、2を参照し、安全使用基準を厳守する。農薬の選定にあたっては、薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤の使用回数が増えないようにローテーション散布はもとより計画的な防除を行う。
- (5) 防除方法は県病害虫防除のてびき(P279, 282~283)を参照する。

[https://www.pref.saga.lg.jp/web/shigoto/\\_1075/\\_32933/ns-nougyou/\\_47429.html](https://www.pref.saga.lg.jp/web/shigoto/_1075/_32933/ns-nougyou/_47429.html)

表1 病害虫防除のてびきに掲載されているタマネギボトリチス葉枯症に登録のある薬剤<sup>1)</sup>

薬剤の系統	薬剤名 (成分名)	希釈倍率	使用時期	使用液量	本剤の使用回数
クロロトリル	ダコニール1000 (TPN)	1000倍	収穫7日前まで	100~300L/10a	6回以内
ジカルホキシミド系	スミレックス水和剤 (プロシミドン)	1000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	5回以内
ジカルホキシミド系	ロブラール水和剤 (イプロジオン)	1000倍	収穫前日まで	- 2)	3回以内
フェニルピロール系	セイビアーフロアブル20 (フルジオキシニル)	1000~1500倍	収穫前日まで	100~300L/10a	3回以内
SDHi殺菌剤	カンタスドライフロアブル (ボスカリド)	1000~1500倍	収穫前日まで	100~300L/10a	3回以内
ゲアニジン	ベルコート水和剤 (イミノクタジナルベシル酸塩)	1000倍	収穫前日まで	150~300L/10a	5回以内
QoI殺菌剤	ストロビーフロアブル (クレソキシムメチル)	2000~3000倍	収穫14日前まで	100~300L/10a	3回以内
酸化的リソ酸化阻害剤	フロンサイド水和剤 (フルアジナム)	1000~2000倍	収穫7日前まで	100~300L/10a	5回以内

1)表中の農薬登録情報は平成28年1月28日現在のものであるため、薬剤の使用にあたっては必ず最新情報を確認する。

2)一印は使用液量に制限がないことを示す。

表2 病害虫防除のてびきに掲載されているタマネギ腐敗病に登録のある薬剤<sup>1)</sup>

薬剤の系統	薬剤名 (成分名)	希釈倍率	使用時期	使用液量	本剤の使用回数
抗生物質	バリダシン液剤5 (バリダマイシン)	500倍	収穫3日前まで	100~300L/10a	5回以内

1)表中の農薬登録情報は平成28年1月28日現在のものであるため、薬剤の使用にあたっては必ず最新情報を確認する。